

「事前チェック票」を活用して 限られた時間で効果的な職場巡視を

石川県金沢市

どこの地方公共団体も、より効果的な職場巡視をしようとさまざまな工夫をしている。しかし、そこで見落としがちなのが、出先機関の職場巡視ではないだろうか。特に合併して大きくなった地方公共団体は、出先機関の数が多くなり、かつ本庁舎から距離的に離れる職場が増えたことで、難しさが増している。どうやって効率よく出先機関の職場巡視をするか、頭を悩ませる担当者も多いだろう。

今回は、出先機関を効果的に巡視するためのヒントを求め、石川県金沢市取材した。

50ある市の出先機関を 4年で一周する

本州のほぼ中央、日本海に面した石川県金沢市。加賀藩前田家の城下町として栄えた古都として全国的に

有名だ。平成27年に北陸新幹線が開業したことが後押しになり、市内には多くの観光客の姿が見られる。金沢市役所は、観光名所である兼六園や21世紀美術館にほど近い場所に立地している。職員数は約3200人。市は編入や合併を経て、8年に中核市に移行した。

金沢市には、保育所や市民センター、図書館や道路管理事務所など、50もの出先機関があり（学校を除く）、それらを市役所安全衛生委員会が管轄する。出先機関の職場巡視は、市役所安全衛生委員会が「安全点検パトロール」（以下、パトロール）という名称で実施している。しかし、そうした出先機関は本庁舎から離れているところも多く、頻繁に巡視するのは、時間的にも人員的にも難しい。そこで、委員会では年に十数か所ずつ、4年で50か所全ての出先機

関にパトロールに行くというスケジュールで出先機関の職場巡視を実施している。

パトロールは、毎年8月に実施するが、出先機関の職場巡視にあてられる日数は3、4日に限られる。そうすると、1日に少なくとも3件の職場を訪れることになり、必然的に1か所のパトロールにかけられる時間は2時間程度だ。

パトロールを担当する人事課主査の池田昌志さんは、「本当はもっと頻繁に行き、もっと時間をかけられればいいのですが、職場巡視だけをずっとやっているわけにはいきません。限られた時間で、職場の規模や職員数で区別することなく、全ての出先機関を巡視するために考えた現実的な計画です」と話す。

電気技術の専門職員を含め 4人1チームで巡視

そんな限られた時間で実施されるパトロールだからこそ、できるだけ有意義なものにしたいという委員会の思いは強い。その思いの表れの一つが、パトロールを実行するチームである。

パトロールは、人事課の安全衛生



総務局人事課主査・池田昌志さん

担当と保健師、職員組合の代表である委員会の委員、そして総務課の電気技術の専門職員という4人がひと組になってまわっている。「委員は一般の職員目線で巡視。保健師は主に職員のメンタルや健康管理面を重視しつつ巡視。そして電気技術の専門職員は、施設管理の専門家として主にハード面を重視しながら巡視。それぞれが違う目線でパトロールをしています」と池田さんは言う。

実際にパトロールの最中は、電気技術の専門職員は廊下の幅を測る、柵の位置や固定方法をチェックするなど施設全般について危険がないか確認し、場合によっては、その場でコンセントの安全カバーをつけたり、配線を直したりと簡単な修繕をしたりもする。その横で保健師が、例えば保育所ならば汚物の処理方法などの衛生面のチェックをするほか、職員の労働時間の確認をしたり、夏休

みのスケジュール表を見ながら「これ、本当に全員休みを確保できますか」と聞いたりして過重労働について口頭で確認していくなど、同時進行だ。

「出先機関のなかには本庁舎からかなり離れているところもあり、それほど何度も行けません。簡易なものであれば設備面をその場ですぐ直すことができないのはとても助かります。また保健師の存在も大きいですね。本庁舎にはメンタルヘルスの相談窓口がありますが、出先機関の職員にとってはなかなか利用しにくい面もあり、この機会に実際に職員の様子を見て声をかけることができるのは非常に有意義だと思います」と池田さんは言う。

職場巡視を「施設見学」に終わらせないために

そしてもう一つ、市の職場巡視で特徴的な手法が、「事前チェック票の送付」である。

安全衛生委員会では、パトロールを実施する約1か月前に、対象の職場に図1のチェック票を送付。それを各職場の職員たち自身で記入してもらい、人事課に返送してもらう。

パトロールの担当者は、事前にチェック票を見てその職場の情報を確認してから対象の出先機関に向かうという仕組みをつくっている。

事前チェック票の送付にどんな狙いがあるのか。池田さんは「パトロールを、ただの施設見学に終わらせないため」と言う。そこには、公務職場特有の事情があった。

「実は私は今年度人事課に異動してきたばかりで、今回が初めてのパトロールでした。本庁舎内ならばどの部署も

だいたいつくりは同じですから分かりますが、出先機関となると、行ったことがない場所ばかりです。いきなり初めての場所に行つて、ほんの2、3時間だけ職場を見ても、そこにどんな危険や問題が潜んでいるか見つけることは非常に難しいです。ただ行くだけでは、施設見学になってしまいます」と池田さんは言う。

金沢市に限らず、公

務職場に異動はつきもので、労働安全衛生を何年も継続して担当する職員はほとんどいない。実際、今年度のパトロールを担当した4人のうち、池田さんを含め2人が初めての経験だったと言う。さらに、前述の通り50の出先機関を4年でまわるということは、今後3年は同じ出先機関に行かないことになり、同じ職員がもう一度その職場にパトロールに出向くことは確率的に低いだろう。

事前の情報収集で効率的にパトロールする

今年度のパトロールの事前チェック票には、例えば職場環境改善のために取り組んだことについて「出入りに『飛び出し注意』のプレートを設置した」（保育所）、「開けたら閉める」の徹底を図るために注意書きを貼った」（保育所）などの報告が寄せられた。一方、今後改善したい

市役所安全衛生委員会 安全点検パトロール事前チェック票

所属所名 _____

【施設概要】

①設立年 年 月 日 改定年 年 月 日

②職員数

| | 人数 | 職種別内訳 |
|--------|----|----------------------|
| | | ※事務・保健師・保育士・用務士・司書など |
| 正 規 | | |
| 非常勤 | | |
| 臨 時 | | |
| 非常勤パート | | |
| 合計 | | |

③勤務割 例) 8:30 ~ 17:15 , 土日祝は正規職員4名でローテーション

④公用車 台 鍵の保管場所

⑤施設利用者 人 / 日・月・年

⑥避難経路図 あり ・ なし

⑦清掃業務 職員による清掃 ・ 委託業者による清掃
害虫駆除 職員により実施 ・ 委託業者により実施 ・ 未実施

⑧公務災害の防止や職場環境改善のために取り組んでいること。
※他の職場でも参考に出来るような取り組みがあれば、是非、ご記入ください。

⑨職場環境で改善したい(する予定)こと。

※恐れ入りますが、当チェック票を、7/25(月)までに、人事課福利厚生係あて返送してください。

■ 図1 安全点検パトロール事前チェック票

点としては「もともと3人職場であつたところに8人が働いているので、机や機器も多く移動スペースに余裕がない」（市民センター）、「2歳児のプールの栓を安全なものに交換したい」（保育所）などの意見が寄せられた。「事前チェック票には、建物の築年数や職員数といった基礎的なことから、日ごろの職場環境改善への取り組みや職場環境に関する要望などを書き込む欄があります。これのおかげで、行ったことがない出先機関の概要を事前に把握できま

巡視者と職場が互いに協力し合う

すし、パトロールのときに特に注意して見るべきポイントも分かり、より効率的に職場をまわることができ

ます。特に私は今年度が初めてのパトロールだったので、事前チェック票で予習できるのがとても助かりました」と池田さんは言う。

職場巡視では、第三者の目だからこそ発見できる危険は多い。一方で、その職場で毎日働く人だからこそ見えてくる危険や問題もあるはずだ。もちろん、一つの職場に時間をかけられるならば、そこでじっくり話を聞きながら効果的なパトロールができるだろうが、時間は限られている。その解決方法として、確かに事前

チェック票は有効だろう。

一つ気がかりなのは、事前チェック票の送付で、対象の職場がパトロールのために一時的に片付けなどをしてしまい、普段の様子が見られなくなるのではないかということだ。「ありのままの状態を見るために、抜き打ちで職場巡視をする」という、いわば事前チェック票の送付とは正反対の手法をとる職場もあるが、その点はどうなのか。

池田さんは「あくまでも私の感想ですが、どの職場でも取り繕っている感じはありませんでした。むしろ、ほとんどの職場で問題点をできるだけ見てもらいたいという姿勢でした。保育所など出先機関の職員は専門職が多く、本庁舎に行く機会はその機会に、修繕などが必要とする箇所をぜひ見て欲しいという雰囲気を感じました。もっと職場巡視の頻度が多ければ抜き打ちでやるのも効果的かもしれませんが、今の私たちの状態では、互いに協力し合っ

次の担当者のために充実した資料を残す

て巡視する方法が合っているように感じます」と語る。

パトロールで見つかった危険箇所については、先述のとおりその場ですぐ対応できるものは対応し、予算や時間が要すると判断されるものについては、安全衛生委員会に持ち帰って話し合い、緊急性の高いものから対応していくことになる。予算の都合上、なかなか抜本的な対策ができないこともあるのが悩みだ。「費用がかかるものについては、関係部署に予算要求を上げるよう要請しますが、なかなかすぐにはいきませんね」と池田さんは言う。どこの地方公共団体もそうだろうが、施設の改修などには大きな予算が必要になるため、簡単ではない。

一方で、大きな改修は難しくても、すぐに行える職場巡視の手順の改善には積極的だ。池田さんは、今回、パトロールに臨むにあたり、4年前を対象出先機関で実施されたパトロールの報告書を読みこんだ。4年前に指摘された箇所が、今、どうなっているのか。直したところは維持されているのか。そうした視点が、初

めてのパトロールで非常に役に立ったのだと言う。

「今のサイクルでいくと、次に同じ出先機関にパトロールに向くのは4年後。そのとき自分が行くのか、新しい担当者が行くのかは分かりませんが、頻繁に行けない場所だからこそ、過去の記録の価値は大きいものです。ただ、4年前の報告書は文章が主で、あまり写真がありませんでした。今回、パトロールの様子や指摘した危険箇所などできるだけ多くの写真を撮影してきたので、4年後のパトロールを実施するときに

もっと役立つ資料になるよう、写真を共有できるようにするなど報告書のつくり方を改善していこうと考えています」と池田さんは言う。

事前チェック票を送付する方法は、26年度に池田さんの前任者が考案し、それを受け継いでいる。そして今年度池田さんが作成する新たな報告書を、いざれ新しい担当者が活かす。限られた人員と時間、そして公務職場ならではの頻繁な人事異動。そうした事情の範囲内で、もっと効果的な職場巡視をするためにできることはないか。模索は今後も続いていく。